

オーガニック ビレッジ宣言をしては

永田 千佳議員

先進自治体の情報収集に努める

産業建設部長



▲オーガニックビレッジの取り組み

問 農林水産省では、みどりの食料システム戦略を踏まえ、有機農業に地域ぐるみで取り組む市町村をオーガニックビレッジと呼び支援している。県内では6市町がオーガニックビレッジ宣言をしているが、本市ではこの動きについてどのように考えているか。

答 SDGsや環境重視の動きの加速、昨今のウクライナ情勢による原油高の影響からの農薬や肥

料の高騰など、社会経済の急激な変化により、従来通りの農業を実施できなくなる可能性がある。本市の農業を持続可能なものとするため、持続可能な農業の在り方の一つとして、有機農業の推進について既に宣言をしている先進自治体の情報収集等に努める。

問 農林水産省では、学校給食での有機農産物等の利用を推進すべく、令

和6年度は12月8日を有機農業の日と定めた。近隣市ではあま市がこのキャンペーンに参加しているが、本市では今後行われるこのキャンペーンに参加するか。

答 本市では6年度に愛西市産有機レンコンを使用した。物価高騰から有機野菜の使用について恒常的な実施を未定としているため、キャンペーンへのエントリーは考えていない。

愛西市の環境保全型農業の動きは

問 環境保全型農業について、本市では民間と行政においてどのような動きがあるか。

答 一つの団体が協議会を立ち上げ、化学肥料、化学合成農薬を原則5割以上低減する取り組みに併せて地球温暖化防止

や生物多様性保全等に効果の高い営農活動を行い、環境保全型農業直接支払交付金が活用されている。

問 県の制度であるエコファーマー認定制度廃止のため、新たに認定を受けることはできなくなりましたが、現在認定を受けている方に対して今後どのように活動していくのか。

答 現在、本市では14名がエコファーマー認定を受けているが、認定期限までに新たな認定制度による認定を受けるよう働きかけをしていく。エコファーマー認定制度時に作成した「ぐるぐる農産物のラベルを活用して、愛西市のこだわり農産物の周知を引き続き実施していきたい。